

十神山



会 報



安 来 節

YASU

GI

BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-0064

島根県安来市古川町 534

TEL 0854-28-9988

FAX 0854-28-9393

https://www.y-hozon.com/

E-mail:admin@y-hozon.com

私と安来節

— 令和 8 年度 昇格者 —

財産になった 安来節



唄 准名人
吉 野 和 夫
(本部道場長)

私が安来節に関わったのは、同僚が安来節の教室に通っており、連れて行ってもらったのがきっかけでした。教室には、高野静子先生、門脇長市先生のお二人で開講されており、高野先生は初代渡部お糸さんの愛弟子だったそうです。十人ほどの生徒さんが座って指導を受けておられ、資格も無資格の方から准師範の方まで様々でした。会の始めは、教室の唄を全員で合唱して下の階級から指導を受けていました。高野教室では、町内で祭り等があると生徒を連れて順番に唄わせて頂きました。また、八月十六日には、安来節流しに連れ出して三味線を弾きながら唄って歩いた事など懐かしく思い出されます。それが安来節のスタートだったと思います。

習い始めて五、六年経った頃、青年団から「錢太鼓とどじょうすくい」で出演するので応援してほしい」と声が掛かり、県内からは多数のグループが出場されていました。終了後、発表を見に行ったら、安来グループが県代表に決まっております。まさか、まさかの出来事でビックリしました。代表として夜行列車で東京まで行き、日比谷公会堂で発表させていただきました。また、これまでの海外での公演も忘れられない思い出です。ハワイで島根県物産展と公演があり、二代目遠藤お直さん姉妹と出演させていただき、最終公演後、島根県人会の集会にも参加し、大変喜んでいただけた事もありました。後年、ドイツ、ベルギーでの公演では、ひたたくりに遭ったり、航空券が二重に発行される等、日本ではあまり考えられない事案に遭遇し、大変驚きました。そんな事もありましたが、私達の公演が少しでも安来節の広報活動に貢献できたのではと思っています。

私の都合で、二十数年間、保存会に在籍するだけで活動をしなかった事は心苦しく思っていました。幸いにも職場の旧日立金属安来工場には、「民謡同好会」があり、私も一員とさせていただいていました。この会には、名人の野坂亮利さんや西村利美さん、准名人の足立稔さん、野坂守男さん、糸賀忠義さん等の上位資格者の方々が在籍されており、大変心強かったです。女性の方もおられ、二代目遠藤お直さん等に錢太鼓や女踊り、しげさ節踊り等を指導していただいておりますが、先輩方が退職されると共に活動が出来なくなり、残念ながら活動休止から廃部となつてしまいました。この期間、安

来節との縁が切れていなかった事は、私にとつて幸いであつたと感謝しています。私も退職と同時に本部道場に復帰させていただき、保存会の一員として楽しませていただいております。

また、安来節演芸館に出演させていただいた事も良い経験になりましたし、和歌山県で開催された「ねんりんピック」に、島根県代表として鼓で出場し、最優秀賞を頂いたのも大変良い思い出として残っています。

振り返ってみますと、安来節に出合った人生は、私にとつて最高の財産になったと思っています。今後は、微力ながら後輩の皆様方のお力添えになれば幸いに思います。

島根の宝 「安来節」



絃 准名人
野 坂 亮 孝
(湖陵支部)

……と、私は思っております。

この度、支部よりご推薦いただき絃准名人を拝命する運びとなり、身の引き締まる思いと同時に導いて頂いた諸先輩の皆さま、今は亡き師、野坂亮利先生、また多くの方々との出会いに改めて感謝しお礼を申し上げます。

中学生時代に近所のおじさんが弾かれる三味線の音色が気になって仕方ありませんでしたが、進学により片道二十キロの道のりを自転車を通して、部活する身ではどうすることも出来ませんでした。

二十代後半、ふとしたことで親戚の方に連れて行かれたのが現東海支部中村支部長のお父さん、藤原靖行先生の教室でした。「わあっ 三味線の世界だ！」もう三味線に触れるだけで感動ものでした。嬉しくて、のぼせて稽古したことを思い出します。習う程段々と難しくなり、唄う人によって節も長さも違い、音域の広さに戸惑い、アクロバティックに小気味良いリズムで打ち込む鼓など、

私と安来節



絃 准名人
野 坂 恵 子
(神門支部)

この度は、絃 准名人に昇格させて頂きました事、諸先生、先輩、支部の皆様、沢山の方々に厚く御礼申し上げます。

四歳の時に、父が通っていた安来節教室に付いて行き、魅せられ、神門支部に入会し、同支部の故原功准名人より絃の指導を受け、多くの指導者に恵まれました。

安来節全国優勝大会の少年の部では、数多くの優勝をさせて頂きました。昭和六十二年には、一般の部の二段、翌年には、三段で優勝し、さらに師範の部では、平成七年、九年、十年と優勝させて頂きました。

どれを取っても私の頭の中は？（はてな）マークで一杯でした。今振り返ってみるとその難解な安来節を演じる事が出来る私たちは幸せであり、これを継承し高めて行く責任があると思います。

変わりゆく時代の流れは止めることは出来ませんが、愚痴を言わずに楽しんで唄ったり演奏していれば、必ず何かの形で膨らんで残って行くのではないかと信じております。

今までの出会いを大切に、「島根の宝」を大切に、これからも皆様と一緒に楽しみながら勉強させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

中学生の頃から、故野坂亮利名人の指導を受け、平成十五年に大師範に昇格させて頂き、同年に野坂師匠から名取襲名を受けました。亡き師匠も今回の昇格は、とても喜んでくださっていると思います。

民謡人口が減っている今、私の活動としては、安来節の指導をずっとしている訳ですが、三年前から文化庁からの公認を受け、小、中学生の教室、県内外の催しに参加してアピールをし、SNSなどの配信を行ったりしております。

今後も古き良き伝統芸能安来節の発展のため、安来節保存会、また、神門支部の発展のために努めて参ります。

皆様、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



安来節との出会い


 唄 大師範
柴田みどり
(益田支部)

この度、益田支部のご推薦をいただき、唄で大師範に昇格させていただきました。身に余る光栄と同時に身の引き締まる思いで一杯です。諸先輩の先生方のご指導と支部の皆様、仲間の方々、家族に心から感謝いたしております。

安来節との出会いは、今は亡き出雲信子先生のお店に立ち寄った時、唄った事もない安来節でした。最初は、正座でテンポ、間違えるため膝を叩いて、出来なくても一生懸命でした。その後、三代目出雲愛之助先生に手解きを受け、慣れない節回しで、三味線に合わせる事が難し

かったです。平成元年に師範に昇格する事が出来ました。師範になってからの高いハードルで壁にぶつかり、勤めながら夜の稽古では上手な方のテープを何度も聞き直し、自分との日々戦いでした。

優勝大会では、会場に行くとかくさんの素晴らしい方々との出会いが嬉しくて、「また会いましょうね」の一言が頑張る励みにもなりました。

不得意な三味線も、平成十六年に師範に昇格する事が出来ました。その矢先に主人が病に掛かり、「協力出来る事はするから頑張れ」との言葉もあり、その甲斐あって優勝大会の団体の部で準優勝した事もありました。安来節が好きだから続ける事ができ、唄わせていただける事を幸いに思っております。

いつも、同支部の出雲美枝乃丞さんが心強い言葉を掛けてくださり感謝しております。大師範の名に恥じぬよう、これからも感謝の気持ちを忘れず安来節を楽しみながら、努力を重ねて精進して参ります。

安来節との出会い


 唄 大師範
金築章
(本部道場)

私は、三十数年前、両手両足に力が入らないギラン・バレー症候群という難病になりました。しかも、その十年前に一度同じ病気を経験。世界でも例の無い原因不明の病気でした。一度目は、半年の入院治療で治りましたが、二度目は、半年寝たきり、半年リハビリの一年間の入院生活でした。初めは、鳥取大学付属病院で検査と治療後、リハビリ専門の玉造厚生年金病院へ転院しました。その時、目の不自由な年配の方と同部屋になり、親しくなりました。

ある日、その方が「申し訳ないですが、都合の良い時間に新聞を読んでもらえないかね?」と頼まれましたので、リハビリの合間に出来るので、良いですよと快く引き受けました。毎日

二時間二カ月ほど新聞記事の朗読を続けた頃、その方から朗読のお礼の言葉の後に「喉がつかれないね。その喉を何かに生かされたらどうですかね」と言ってくださいました。その時は、何も思いませんでしたが、あとから、ふと、我がふるさとの民謡安来節が頭に浮かびました。その日から、退院した暁には、安来節を習ってみようとの思いに駆られ、毎日、今まで以上にリハビリに励みました。

そして退院後、平成八年に「みんなの安来節教室」に思い切つて参加し、故三代目安達順吉先生と出会い、その日からの縁で現在に至っています。特に思い出深いのは、平成十一年に唄一級の時、同じ生徒さんで現在は唄と絃の大師範の安達順子さんと優勝大会において、優勝できた事です。

さて、一月に五代目安達順吉を襲名された安達雅宏先生ほか諸先生方のご指導を賜り、この度、唄大師範に昇格させていただきました。身の引き締まる思いです。今後、皆様方への感謝の思いを忘れず、安来節保存会発展のため、稽古に励み、微力ながら貢献出来るよう努めたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

私が一番好きなのは民謡? 安来節?


 絃 大師範
出雲美枝乃丞
(益田支部)

私は、子供の頃から民謡が好きでした。

島根県浜田市の山間部で生まれた私は、当時ラジオしか情報源が無く、ラジオから流れてくる「民謡をたずねて」と「音楽の風車」を聴くのが楽しみでした。中学生の頃、こぶしの面白さにはまり、斉太郎節、真室川音頭、ソーラン節等、ポピュラーな曲から覚えしました。

愛知県へ就職していた時、会社の箏曲部の先生に三味線と民謡の楽譜をお世話してもらい、独学で三味線を弾きながら唄っていました。ある年、会社の県人会の祭りで大東町出身の兄弟が父親の伴奏で銭太鼓を打つのを見た時、その独特のリズムに感動して、安来節だけは島根に帰って習おうと思いましたが、浜田に帰ってから、安来節をやっている人の情報は無く、習う事も諦めていました。そして、益田市へ嫁いで三年目、長男を家の前で子守りしていたら、近所で安来節の三味線が聞こえ、子供の手が離れたら習いたいと思いました。それから四年、次男が幼稚園に入るのを機に入会しました。

昭和五十八年に初めて審査を受け、順調に昇格し、三段の時、故出雲信子先生に誘ってもらい、師匠の三代目出雲愛之助先生に習い始めました。平成元年に唄、絃で師範になり、平成三十年には唄で大師範に昇格させていただきました。

民謡も師範になった頃から正式に習い始め、故丸瀬一宇先生に勧められ、日本民謡協会の民謡教授の資格も取得しました。

今は、松葉会という民謡踊りを楽しむグループで益田市内のデイサービス施設の慰問等で、安来節や各地の民謡を唄ったり、弾いたり、踊りの地方をしたりして、高齢者の方々に楽しんでもらっています。

これからも仲間と一緒に、人に喜んでもらえる民謡を楽しく続けていけたら幸せです。そして、同時にせっかくだらした安来節の唄と絃の大師範の資格ですから、後輩にしっかりと受け継いでもらえるよう指導していきたいと思っています。

いろいろと考えてみますと、私が本当に好きなのは、安来節を含めたすべての民謡だという事に気付きました。これからも大切にしていきたいと思っています。

私らしく


 絃 大師範
岩田彩代
(本部道場)

この度、絃大師範に昇格させていただきました。これもひとえに小池孝子先生をはじめ、皆さまのご指導とご支援あつてのことと深く感謝申し上げます。

私が安来節を始めたのは、テレビで見た『吉田兄弟の津軽三味線』への憧れからです。「私もあれ(三味線)がしたい」その思いで通い始めたのが小池教室でした。小さかった私は、椅子に座ると足が床につかず唄から習い始め、祖母から受け継いだ三味線を弾くようになってからは、祖母お手製の足台を使っていたことを覚えています。学生時代は、毎週学校や部活終わりにお稽古に通い、「春になれば審査を受け、お盆には優勝大会に出る」これが恒例行事でした。社会人になり体験したコロナ禍。安来節から離れた時期もあり、「このままやめてしまおう、そっと消えたら気づかれないだろう」と何度も思いました。それでも、ふと掛かる「元気にしちようかね?」の先生からの電話が思い留まらせてくれました。久々に弾く三味線の音色は練習してこなかった期間が顕著に表れ、聴いていたくには大変恥ずかしいものでした。現在もコロナ禍前の状態に戻せているとは言えませんが、舞台上上がる前に背を叩き鼓舞してください。昔から変わらない先生の手にいつも救われ、力をいただきました。舞台に立つています。

いつの間にか二十年以上、人生三分の二以上の期間を安来節とともに、小池先生とともに歩んできました。自由奔放で我儘、手を焼かせることしかありませんでした。それでも見放さずここまで鍛えてくださった先生には感謝してもしきれません。いろんな方が「あなたは小池さんの手と一緒にだな、小池さんの三味線はいいよ、大好きなんだ」と伝えてくださいます。その度に先生に出会えたことを誇らしく思うのです。いつか先生を超えられる三味線を弾きたい、まだまだ長い道のりになりますが技を盗みつつ、私らしく我儘を言いながらも先生とともに過ごしていくんだらうと思っています。

最後になりますが、ともにお稽古に励んでくださる教室の皆さま、支えてくれている家族に心より感謝申し上げます。『好きこそもの上手なれ』の言葉のとおり、嫌にならないよう、ほど良い距離感を保ちながら、今後ともよろしく願いいたします。



様々な舞台に 出演させて頂いて



踊 大師範
小 谷 実
(松江支部)

令和八年一月十二日の「唄い初め会」にて踊大師範に昇格させて頂いた。これも偏に多くの先輩の皆様方、松江支部の皆様方のご指導の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

昭和五十一年一月十五日に保存会入会（当時二十四歳）以来、三十六歳から復帰する六十四歳までの二十八年間、仕事の都合上、保存会活動を休ませていただいております。その間にも、①平成十二年「保存会創立九十周年記念博多座公演」、「まつりinハワイ公演」②「韓国密陽市親善訪問&EXS

安来節を習い 始めたきっかけ



錢太鼓 大師範
入 江 訓 子
(本部道場)

近所の方から「公民館で安来節をやっているらしいから、一緒に行ってみない？」と、お誘い受け、子供も中学生になり自由な時間が出て来たので行く事にしました。当時、十人位の生徒さんがいて、今は亡き金山久夫先生が唄の指導をしておられました。みんな初めてなので一から丁寧に教えていただきました。当時は審査など受けておらず楽しく唄っていました。その後先生が安達久美先生に代わって、審査を受けるようになり、平

PO慶州公演」③平成十五年「ほんばし島根館オーブニングイベントでの公演」④平成十七年「NHK第一回それいけ民謡」、そして昨年五月の「NHK民謡魂」と多くの大きな舞台に出演させていただき、貴重な勉強、経験をさせていただきました。今日でも日々思い出しています。また、多くの先輩の方々よりいただいた厳しい教えを引き継ぎつつ、基本を守りながら、これからの保存会の未来を背負って立たれる若手の方々、その教えを分かりやすく、また私自身の経験も出来る限り伝え、一人一人の「個性を生かした」「個性溢れる」自由な発想で観ておられる方々に「ああ、楽しかった」「ああ、面白かった」と幸せな気持ちになっただけ、享受しただけの踊りを発表出来るよう私自身も更に勉強、研究を重ね、微力ながら頑張っただけの所存です。

これからも皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

成十年に唄の師範、二十七年に大師範に昇格いたしました。唄以外の種目もやってみたくなり、今は亡き橋本光世先生の所へ行き錢太鼓を教わり、平成十六年に錢太鼓も正式種目になり、初年度の審査は、どの階級を受けても良かったので、思い切って准師範を受ける事にしました。運良く合格でき、その後、平成十八年に師範になり、安来節演芸館にも出演させていただくようになりました。

唄、錢太鼓以外の種目も習いたくなり、小池孝子先生の教室へ行き、三味線と鼓を習うようになり、毎週一回、他の二人の仲間と楽しく練習を重ね、両種目とも師範になる事が出来ました。

今年、錢太鼓で大師範の免状をいただき、これからは技術の研鑽に励み、大好きな安来節、そして錢太鼓を続けていきたいと思っています。

キミトミライ

「勇気を持って、夢を追えよう」

この度、「キミトミライ」勇気を持って、夢を追えよう」とのタイトルで、今号より若手会員が「伝統を守りながら新しい時代を切り拓く姿」を応援する目的で掲載いたします。自薦、他薦を問いませんので、若手会員のご寄稿や情報をお待ちしております。

伝えたい、私の「安来節」



佐藤 菜々子 (中1)
(松江支部)

私が安来節を始めたきっかけは、よく覚えていません。父と母が私が生まれる前から安来節をしており、私は母のお腹にいる時から安来節に触れていました。

小学校一年生から安来節保存会に入会、本格的に安来節の練習を始めたのはこの時からです。運動が壊滅的な私が友達みんなに誇れることのひとつが「私は伝統的な民謡を唄えるんだよ!!」と言えることでした。

今回、中学校の夏休みの課題として「アイデムはたらくすがた写真コンテスト」への作品を応募させていただき、私が選んだ身近で働く大人は、安来節演芸館の増田明美さんでした。いつもお客様を元気に、笑顔でお迎えし、自らステージで演芸を披露されるなど、増田明美さんは私の憧れの「はたらく大人」でした。「演芸館のマスコットガール!」と言う題名で、笑顔で接客される増田明美さんの写真を撮影、応募させていただいたところ、光栄なことに優秀賞を受賞させていただきました。

令和七年十一月、表彰式が東京で行われ、受賞された様々な作品を鑑賞させていただきました。トラックを運転する母親、近所



優秀賞受賞作品
「演芸館のマスコットガール!」



に住む漁師など、様々な「はたらく大人」の姿がありました。その輝かしい作品達の中に、私の撮影した「演芸館のマスコットガール!」が並んでいました。全国から集められた安来節を全く知らない受賞者の皆さんが、私の撮影した安来節演芸館の様子を、足を止めて眺めてくださいました。

私は感じました。こうやって安来節を知らない人に、ほんの少しずつでも安来節について伝えていけば、それはいずれ大きな成果となるのではないかと。

安来節を伝える人ができるのは、なにも安来節を披露することだけではないと、私は思います。

ある時は身近な会話。ある時は私のように作品という形で、安来節について何も知らない人に「安来節の欠片」にほんの少しでも触れてもらうこと。それもまた、安来節を伝えるということではないでしょうか？誰だって、物事を始めるきっかけとなるのは興味だと、私は考えています。小さな頃から安来節に触れてきたことで自然に育っていた安来節や伝統芸能への興味が、いまの安来節保存会会員としての私を作っています。そして、興味を持つにはまず知らねばいけません。「知る」ためには誰かが「伝える」必要があります。それが出来るのはきっと私たちだけではないでしょうか？私はこのことを胸に刻み、これからも日々の練習だけでなく、私の安来節の欠片をたくさんの方に伝え、繋いでいきたいです。

支部情報

家元四代目渡部お糸先生による 「安来節の手ほどき」を 受講して

受講者一同

昨年の年の瀬の何かと忙しい十二月十三日・十四日の二日間、初日は大江戸支部、二日目は関東四支部合同で、お家元をお迎えして安来節の基本をご指導いただきました。お家元に直接ご指導いただく事など、関東に居住している私達にはあり得ないと思っておりましたが、縁あって来てくださる事になり、その日が来るのを首を長くしてお待ちしていました。当日、待ちに待ったお家元のご指導が始まりました。とてもわかりやすく、また楽しく教えていただき、難しく考えていた安来節が「これなら私達でも楽しく覚えられ、上達出来る：かも」という考えに変わった瞬間でした。



出来た事は大変楽しく、有意義なひとときでした。二日間を通して感じた事は、「お家元の安来節に対する思いの深さ」「正調安来節を心を込めて伝えたい」という熱い思いのご指導に改めて感謝し、尚一層頑張りたい：と心に誓いました。

支部設立二〇〇周年を迎えて



尾高支部長
矢倉 義法

『尾高支部 先人達が築いた道を
継ぎ継いで 一〇〇周年
笑顔と絆をモットーに
後々までも 後迄も
唄い続ける 安来節』



来節の普及、発展に支部員一同頑張っておりま

昨年支部設立一〇〇周年を迎え、数少なくなつた支部員(十二名)で、ささやかな祝賀、親睦の集いを行いました。支部設立は昭和元年、本部道場に次ぐ二番目に設立された事に身の引き締まる思いと同時に、諸先生方に依つて築かれ育てられた支部を大切に引き継いで行く事が私達の責務だと痛感せざるを得ません。私が尾高支部に入会したのは昭和五十一年、当時は九十人近くの支部員でしたが、民謡ブームの衰退、コロナ禍の影響、会員の高齢化等で徐々に減少し(現在十三名)今に至つており、非常に心を痛めております。毎年事業計画に会員の勧誘を募ることを目標にしておりませんが、なかなか遂行出来ません。団体戦も組めなくなつた弱小支部ですが、私が入会して半世紀の間に、資格審査員二名、名人一名・准名人四名・大師範延六名・師範延三十九名を搬出する等技倆の高い支部だと誇りに思つております。毎週の練習会だけで無く、年に一度の研修旅行も十八年間続きました。宿ではもちろん、行帰りのバスの中での特訓は圧巻でした。今となつては良い思い出です。

祝賀会は、先ず矢倉紀子准名人に依る安来節(前書き安来節)の披露で始まり、次に先輩より古き時代の支部練習会の様子を聞き、懐かしく又その当時の支部員の名前が出る度に当時を忍び話に花が咲きました。続いて何時もの様に無礼講で自由に安来節を披露し、最後はもちろん全員で安来節の合唱で締め、お互いに親睦を深めた有意義な祝賀会でした。終わりに、今日まで支部を育てて下さつた保存会の諸先生方、関係者各位に感謝の気持ちを捧げます。

これからも、安来節の普及、発展に支部員一同頑張っておりま

令和8年「唄い初め会」支部競演成績

(令和 8 年 1 月12日)

安来市長賞	関西支部
安来市議会議長賞	加茂支部
安来市観光協会賞	平田支部
安来商工会議所会頭賞	関東支部
BSS山陰放送賞	和歌山支部
足立美術館賞	湖陵支部
家納喜賞	松江支部
スポーツショップまつもと賞	飯南支部

「唄い初め会」の実施にあたり、趣旨にご賛同をいただいた多くの方から御協賛を賜りました。御協賛をいただいたすべての皆様に心より御礼を申し上げます。
ここでは、御協賛者の方をご紹介します。

御協賛者氏名		(順不同)
本部道場 一字川 勤 様	益田支部	様
本部道場 今岡 淑子 様	益田支部	出雲 正之助 様
松江支部 様	益田支部	山崎 真由美 様
松江支部 二代目 松尾 英興 様	益田支部	石本 紀美子 様
松江支部 二代目 高山 保子 様	尾高支部	様
松江支部 渡部 泰孝 様	境港東支部	様
湖陵支部 様	東伯支部	様
平田支部 様	広島東支部	様
神門支部 様	関西支部	様
飯南支部 様	和歌山支部	様
斐川支部 富田 郁徳 様	(有)出雲文化企画	様
大社支部 様		

この度、関東支部の故若岑緑峰様(令和8年2月1日ご逝去)よりご寄付がありました。

寄付金 三万円

ご寄付につきましては、今後、安来節振興のために活用させていただきます。誠にありがとうございました。

安来節しおり・会員証の価格改定のお知らせ

会員の皆様には、大変心苦しいお願いとなりますが、近年の急激な物価高騰に伴い、安来節しおりと会員証の価格を改定させていただくこととなりました。

また、会員証の再発行につきましても、別途料金を頂戴させていただきます。

会員の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◆会員証(令和8年10月1日発行分より)
700円 → 800円
※再発行の場合は、1,000円

◆安来節のしおり(令和8年度版より)
800円 → 1,000円

計 報

三代目砂川清さん(八十二歳)が令和七年十二月六日逝去されました。三代目砂川清さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

安来節ボランティアで
感謝状を授与



東北支部長
清野 勝利

令和七年十一月二十九日、仙台市に隣接する富谷市の社会福祉協議会から、東北支部が感謝状を賜りました。

授与の決定は、安来節により各組織や多くの施設で福祉的貢献に努められたのが理由だそうです。

遠く離れた安来市の伝統芸能を、



宮城県の皆さんに披露することで表彰を受けたことは、安来節に対する高い評価の証拠と、東北支部の会員一同と恐懼感激しております。

また、この事実を安来節保存会会員の皆様にご報告するとともに、安来節の技倆を伝授してくれた先生方に厚く御礼申し上げ、更なる安来節の伸展に尽力する所存であります。

事務局からのお知らせ

この度、安来市がふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」で「ガバメントクラウドファンディング」を令和8年5月1日より7月末までの期間で開始する予定です。

本プロジェクトは、民謡「安来節」の全国大会「安来節全国優勝大会」を通し、安来節の愛好者や失われつつある活気を取り戻し、この大会の継続と伝統芸能「安来節」を後世に繋いでいくことを目的としています。

詳細につきましては、プロジェクトのホームページが出来次第、当会ホームページにて掲載いたします。

皆様方のご寄付が大会継続並びに安来節の存続に繋がりますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※寄付額に応じて、返礼品を受け取ることができます。(安来市外の方のみ)
※通常のふるさと納税と同様に寄付金控除を受けることができます。

感動を呼ぶ 音色と 響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>